＜歴史探訪の会　座学＞

「日本書紀」が編纂され 1,300 年

新型コロナウイルスの感染者が日々増加し、私達の日常生活が一変しました。 歴史探訪会の例会も、いつ行われるのか分からない状況です。みなさんもご家族を含めご苦労な毎日を過ごされている事と思います。

今日は、“歴史探訪の座学”という形で、編纂され丁度 1,300 年目に当たる「日本書記」について学ぼうと思い、まとめた資料をお届けします。出来るだけ解かりやすくまとめましたのでご覧ください。

1.「日本国」の誕生

日本最古の歴史書である「古事記」と「日本書紀」はどちらも約 1,300 年前に完成しました。これらが作成された頃の我が国はどんな時代だったのでしょうか。

東アジア最大の国家「唐」が存在する中、朝鮮半島では高句麗・新羅・百済の争いが絶えず、天智天皇もそれに巻き込まれ“白村江の戦”で大敗し不安定な国家運営でした。
更に天智天皇が亡くなった後の 672 年、皇位継承をめぐって天智天皇の弟大海人皇子と天智天皇の息子大友皇子が争いました。（古代最大の内戦“壬申の乱”）
その結果、大海人皇子が勝利し天武天皇となりました。

天武天皇は国を安定させるために、すぐに「唐」の制度を取り入れ、国家機構の基本を定めた「律令」を整備しました。
＊律令とは天皇を頂点とする中央集権国家を表す。律は刑法　令は行政による統制で、簡単な例としては、国民に田畑を与え作物を作る権利を与えると共に、納税や徴兵の義務も課すものです。

律令制にもとづく中央集権国家の建設が進められ、都は飛鳥京から藤原京、そして平城京へと遷っていきます。それまでの「倭国」を「日本国」という国号とし、「大君」を「天皇」と呼ぶようになったのもこの時代であります。「古事記」、「日本書紀」は「日本国」の誕生という激動する時代の流れと共に完成しました。

2. 日本書記が作られたいきさつ

645 年（大化元年）、乙巳の変（いっしのへん）で中大兄皇子（後の天智天皇）は蘇我入鹿を暗殺しました。これに憤慨した父の蘇我蝦夷は大邸宅に火をかけ、自害し権勢を振るった蘇我本家は滅亡しました。この時に朝廷の歴史書を保管していた書庫までもが炎上し、『天皇記』など数多くの歴史書はこの時に失われました。

その後『天皇記』に代わるものが必要と考えた天武天皇は、国の歴史を表す書物の編纂を側近に命じま

した。まずは天皇の舎人である稗田阿礼（ひえだのあれい）の記憶をもとに官僚の太安万侶（おおのやすまろ）が口述し 『古事記』が編纂されました。（712 年） その後に、焼けて欠けた歴史書や朝廷の書庫以外に存在した歴史書や伝聞をもとに、さらに内容を充実させた『日本書紀』が編纂されまた。（720 年）『日本書紀』は、わが国最初の勅撰国史（天皇の命で編修された国の歴史）と位置づけされました。

３．日本書記

全 30 巻のうち、巻 1・2 は神話的性格の濃い「神代紀」。巻 3 の「神武紀」以下、巻 30 の「持統紀」までは、年月の順に歴代天皇の事蹟や歴史上の事件が漢文で記されています。『日本書紀』が用いた資料は、『古事記』と較べはるかに多彩で「帝紀」、「旧辞」のほか、朝廷の記録や個人の手記、中国の史書、さらに朝鮮半島に関しては「百済記」等も用いられています。巻 28 以降（天武紀・持統紀）は朝廷の日々の記録に基づく記述も増え、記述の信憑性を高めています。

４．なぜ一つの王朝の同じ時期に古事記と日本書紀という歴史書が2つも作られたか、不思議ですね。

多くの考古学者の考えによりますと、両者は全く別のものだそうです。

①両者は神話の世界観が全く異なり、編集目的も異なっている。
古事記は弱者の立場から“**滅びの美学（出雲の国・日本武尊・葛城一族など）**”を中心に述べ、日本書紀は**勝者（大和朝廷）の立場**から客観的に述べている。

②古事記は、語り部によって伝えられた伝承を忠実にほぼそのまま記述したもので、要は、**大王家が歴代統治してゆくことの正当性**を述べようとしたものである。

③日本書紀は、白村江の大敗で、失われた我が国のアイデンティティを再構築するために、中国風の史書すなわち**日本の正史**を作ることを目的としたものであり、古事記と同じ伝承、資料を用いているが、王権にとって都合の悪いことを隠蔽すべく、意図的な取捨・改竄が随所に行われている。

	古事記	日本書紀
作らせた人	**天武天皇**	**天武天皇**
編纂（へんさん）者	**稗田阿礼**が口述し、**太安万侶**が編纂	**皇族**や**官僚**たちが編纂、**舎人親王**が完成させる
編纂期間	約 **4 ヶ月**	約 **39 年**
成立年	**712** 年	**720** 年
巻数	上巻・中巻・下巻からなる**全 3 巻**	**全 30 巻**＋系図 1 巻
扱う時代	神代から**推古天皇**（第 33 代）まで	神代から**持統天皇**（第 41 代）まで
表記	当時の**大和言葉**をもとにした独自の**変体漢文**	**漢文**
描かれている内容	**天皇家**の歴史	日本という国家の歴史

これらを読ませる対象として、**『古事記』は国内向け、『日本書紀』は海外向け**だったと考えられます。

日本書紀が完成した後、古事記は、奈良朝では長らく極秘にされていたことが分かりました。撰録者・太安麻侶の直系子孫・多朝臣人長が、弘仁 3(812)年、日本書紀を講義したときに古事記を紹介し、100 年後になって初めてその存在が明らかになった

5、. 古事記(ふることぶみ)について

内容は上・中・下の 3 巻構成で、上巻は神代から皇室誕生につながる系統を神話で満たし、なかでも印象深いのは、「天照大神の岩戸隠れ」と、「須佐之男命の八俣遠呂智退治」の物語りが有名だ。中巻は初代神武天皇から 15 代応神天皇まで、下巻は 16 代仁徳天皇から 33 代推古天皇までの歴代天皇の系譜や治世における出来事や伝承等が書かれている。

注目すべきは、自然・人間・文化の起源を超自然的な神々に関連させ、伝説や多数の歌謡を含みながら天皇を中心とする日本の統一の由来を物語っている。

古事記の編纂

口述した稗田阿礼と筆記した太安万侶、この二人の天才のお蔭で「古事記」は成立した。

太安万侶について

一時は“古事記偽書”説がささやかれ、安万侶の存在を疑問視する見解もあったが、名が刻まれた墓誌の発見により、実在論はほぼ決定的となった。

昭和 54 年に奈良　田原の里の茶畑から偶然発見された墓と銅版の墓誌は太安万侶の物である事が判り大きな話題となった。その墓誌には当時の墓誌がいずれもそうであるように、簡潔に住所・官位・姓名・亡くなった年月日等が記されていた。墳丘は直径4．5M の円墳と推定され、墓は底に木炭を敷き墓誌を置いた上に木櫃の棺を安置、四周と上面を木炭で覆っていた。その上を土で版築状に硬く突き固め、木櫃の中には火葬骨と真珠などが収めてあった。奈良時代上級官人の墓として完全な状態で明らかにされた例は極めて稀である。

稗田阿礼について

稗田阿礼については、「古事記の編纂者の一人」ということ以外はほとんどわかっていません。「古事記」の序文によれば、天武天皇に舎人として仕えており、28 歳のとき、記憶力の良さを見込まれて『帝紀』、『旧辞』等の誦習を命ぜられたと記されている。

古事記冒頭の文章(訳)**そのとき、一人の舎人がいた。姓は稗田、名は阿礼。年は 28 歳。聡明な人で、目に触れたものは即座に言葉にすることができ、耳に触れたものは心に留めて忘れることはない。すぐさま(天武)天皇は阿礼に「『帝皇日継』(ていおうのひつぎ。帝紀)と『先代旧辞』(せんだいのくじ。旧辞)を誦習せよ」と命じた。**

私が常に感心するのは、今から 1,300 年前に、その時代から更に 1,300 年前を　紀元とする物語を作成するスケールの大きさです。 今年は紀元 2680 年になります。

今回は、予定が無くなり、行くところも無く、久しぶりに退屈する中、ちょっと頭と手先を使いました。
日頃の“行くところ”、“やること”のある “有難さ” を痛感します。

みなさん、どうか日常生活の中でコロナに負けず体力の維持を図って下さい。そして、いつの日か笑顔で例会に参加下さい。

令和 2 年 4 月 20 日

歴史探訪の会　内海春樹